

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 12年5月 ～4-6月期は4四半期ぶりの減産へ

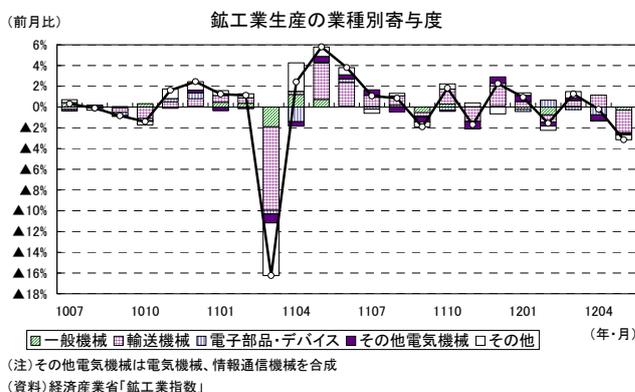
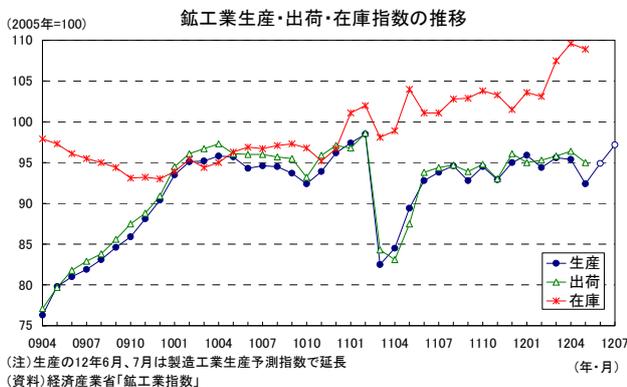
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸送機械の生産が急減

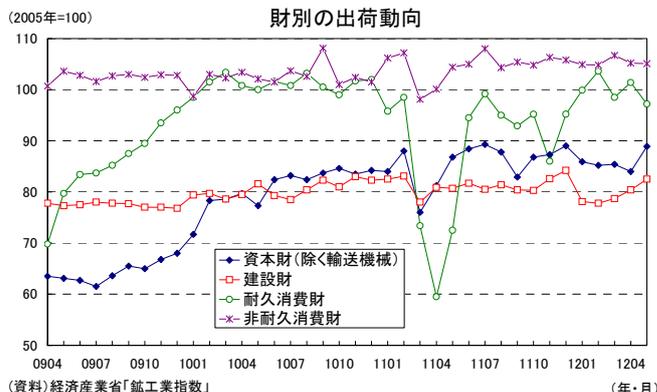
経済産業省が6月29日に公表した鉱工業指数によると、12年5月の鉱工業生産指数は前月比▲3.1%と2ヵ月連続の低下となり、事前の市場予想（QUICK集計：前月比▲2.8%、当社予想は同▲4.0%）を若干下回った。出荷指数は前月比▲1.5%と4ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.6%と3ヵ月ぶりの低下となった。

エコカー補助金再開に伴う国内販売の好調などを受けて、高い伸びを続けてきた輸送機械が前月比▲11.1%と急速に落ち込んだことが生産全体を2%以上押し下げた。速報段階で公表される16業種中、12業種が前月比で低下、4業種が上昇した。

5月は大幅な減産となったが、GWの関係で季節調整に歪みが生じていることにより、実勢よりも伸びが低めにしている可能性がある。5月の結果を過度に悲観する必要はないだろう。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は12年1-3月期の前期比▲2.5%の後、4月が前月比▲1.6%、5月が同5.8%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は12年1-3月期の前期比▲5.1%の後、4月が前月比2.2%、5月が同2.6%となった。GDP統計の設備投資は12年1-3月期に前期比▲2.1%と3四半期ぶりの



減少となったが、11年10-12月期の高い伸び（前期比5.2%）の反動による部分が大きいいため、4-6月期は増加に転じることが予想される。ただし、企業の設備投資意欲は依然として弱いため、回復ペースは当面緩やかなものにとどまる可能性が高い。

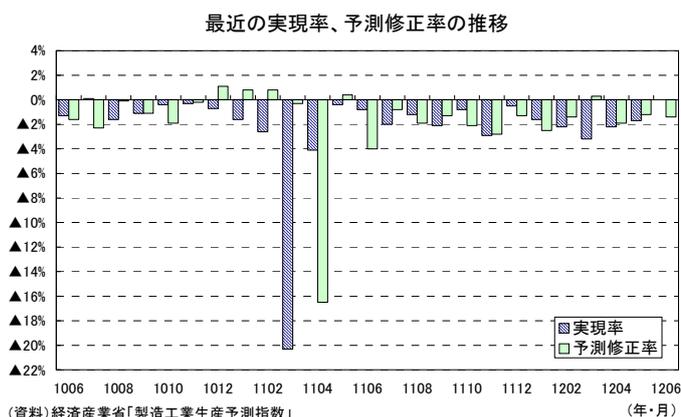
消費財出荷指数は12年1-3月期に前期比4.7%となった後、4月が前月比1.4%、5月が同▲1.2%となった。5月は耐久消費財（前月比▲4.1%）、非耐久消費財（前月比▲0.1%）ともに低下した。個人消費は旅行、外食などのサービス消費が堅調を維持していることもあって全体としては底堅い動きが続いているが、エコカー補助金の終了が見込まれる夏場以降は、息切れすることも懸念される。

2. 4-6月期の減産は確実に

製造工業生産予測指数は、12年6月が前月比2.7%、7月が同2.4%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（5月）、予測修正率（6月）はそれぞれ▲1.7%、▲1.4%となり、生産計画を下方修正する動きが続いている。

6月の生産計画は比較的高い伸びとなっているが、5月の落ち込み分を取り戻していないこと、前年同月比では▲2.5%のマイナスとなっていることを考えれば、決して強い計画とは言えない。

業種別には、5月に大幅減産となった輸送機械は6月が前月比▲3.2%、7月が同1.4%と一進一退の動きとなっており、輸送機械が生産の牽引役の座を降りつつあることを示している。輸送機械の生産計画は、エコカー補助金終了後を見越したものと考えられるが、反動減による販売の落ち込みが想定を上回ることにより、さらなる減産を余儀なくされるリスクがあるだろう。



12年5月の生産指数を6月の予測指数で先延ばしすると、12年4-6月期は前期比▲1.1%の低下となり、鉱工業生産が4四半期ぶりの減産となることは確実となった。

現時点の7月の生産計画（5月の生産指数を6月、7月の予測指数で先延ばし）は4-6月期の平均（見込値）よりも3%程度高くなっており、7-9月期の生産は再び増加に転じることが予想される。ただし、生産計画の下方修正が続いていることに加え、輸送機械の生産計画が下振れするリスクがあるため、実際の生産指数の伸びは予測指数よりも低いものとなる可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。